

区長と話そう、聞いてみよう すぎなミーティング

テーマ「ふるさと納税を一緒に考えよう」

～健全な寄附文化の醸成と都市と地方の共存共栄を目指して～

平成 30 年 12 月 2 日(日)

区では、日頃区政との接点が少ない区民の方々を含め、幅広い区民の声を受け止めていく取組として「区長と話そう、聞いてみよう、すぎなミーティング」を実施しています。今回は、ふるさと納税をテーマとし、ふるさと納税の問題点や健全な寄附文化の醸成、都市と地方の共存共栄を図るための区の取組について話し合いました。

◇ふるさと納税について、今、考えなければならないこと 区長から一言

●この5年間で学校1校分の改築経費が流出



「ふるさと納税」は、生まれ故郷、お世話になった地域や応援したい地域の自治体に「寄附」をすることで、住民税等の税額控除が受けられる制度です。

都市と地方の共存共栄を図る制度として導入されましたが、最近は返礼品競争の過熱から、都市から「流出」する住民税の額も看過できないレベルになっています。

今年度の東京 23 区の流出額は、321 億円を超え最も多い世田谷区で 40.8 億円、杉並区でも 18.7 億円になっています。しかも、ほとんどの自治体は、減収分の 75% が地方交付税で補てんされるのに対し、地方交付税の不交付団体である東京 23 区では、補てんされないため流出額が、そのまま減収額となります。

このままの状態が続くと、区の行政サービスの低下にもつながりかねません。

●「ふるさと納税」は公平で平等な制度でしょうか？

本来、自治体が提供するサービスにかかるお金は、住民が所得に応じて負担するのが基本です。「ふるさと納税」により地方税は軽減されるけれど、サービスは他の方と同様に受けるというのは公平といえるでしょうか。また、高額所得者ほど、税金の控除とたくさんの返礼品を受け取ることができるなど不平等な制度でもあります。

さらに最近、返礼品競争が生じていますが、返礼品

が高額になればなるほど、それにかかる経費も大きくなります。例えば、返礼品を 3 割としても経費を差し引くと「ふるさと納税」を受けた自治体に入るお金は、当初の半分以下になってしまうのです。本来税金として使われる額を大きく減少させているのが「ふるさと納税」なのです。

●「ふるさと納税」にどのように対応していくか

このような問題はあるものの「ふるさと納税」制度は続いていくと思われます。

区としては返礼品競争には参加せず、原点に立ち返って「健全な寄附文化」を醸成する機会として「ふるさと納税」を捉えることとしました。皆さんが応援したくなるような事業をきちっと旗揚げして、寄附の文化を培っていく。それとともに、災害時における「自治体スクラム支援」や南伊豆町との自治体間連携による特養ホームの整備などを通じて、これまでと同様に地方との共存共栄を図っています。

今日は、「ふるさと納税」の問題点を意識したうえで寄附文化の醸成や都市と地方の共存共栄など、皆さんと意見交換できればと思います。

健全な寄附文化の醸成を図ります。

都市と地方の共存共栄を目指します。

安定した健全な財政運営による充実した行政サービスの継続的な提供を行います。



◇ふるさと納税担当課長から 「健全な寄附文化の醸成」を目指して

ふるさと納税担当課長からは、「ふるさと納税」の制度や税金の流出額の説明に加え、寄附文化の醸成のために区が新たに立ち上げた事業や4つの基金、地方との交流などの取組について説明を行いました。

●健全な寄附文化を醸成します

クラウドファンディング事業への寄附

寄附は返礼品で募るのではなく、施策・使いみちを重視

荻外荘の復原・整備
歴史的・文化的資源の保存

日本フィル「慰霊祭での演奏」
被災地復興支援を応援する



区として、原点に立ち返って返礼品競争には参加せず、「寄附文化の醸成」を図っていきます。クラウドファンディング事業を皆様に提示しています。寄附の対象となる事業は、文化財である「荻外荘」の復原・整備や被災地を励ます日本フィルハーモニー交響楽団の活動を応援する事業です。

4つの基金への寄附

目的に応じて選べる「寄附の使いみち」

<p>次世代育成基金 子供たちの未来のために</p>	<p>社会福祉基金 まちの福祉向上</p>
<p>みどりの基金 緑を守り、増やす</p>	<p>NPO支援基金 地域に貢献する活動を支援</p>

また、子どもの体験機会を創出する「次世代育成基金」をはじめとする4つの基金への寄附も広く募っています。この基金については、障害者施設で作製した品をお礼の品として用意しています。また、お礼の品を辞退した場合、相当額の品物を区内の児童養護施設等へプレゼントするなど、寄附本来の在り方に根差した取組を行っています。

●地方との共存共栄を図る

ふるさと納税の根幹には、都市に集中する富を地方に分散させ、互いに共存共栄を図るという狙いがありました。区では従来から地方との Win-Win の関係を築いてきました。例えば、交流自治体である静岡県南伊豆町に特別養護老人ホームを整備し、皆様に老後の選択肢を増やすとともに、南伊豆町に雇用の機会等を創出する取組を行ってきました。また、交流自治体との「子ども交流会」の実施、震災時に基礎自治体同士が相互に支援するスクラム支援も進めています。これらの仕組みによりお金だけではない顔の見える交流を通じて地方との共存共栄を図っています。

地方との共存共栄（区の取組み）



●「ふるさと納税」制度の改善の要望をあげています

その他、「ふるさと納税」が、高額所得者ほど優遇を受けるものであり不公平であること。また、限りある税金の半分以上が返礼品やその経費に消えてしまう。また、その一方で、都市部では行政サービスの低下につながりかねない税金の流出が生じています。区では、特別区長会を通じてこのような問題のある「ふるさと納税」制度の改善に向けて、今後も引き続き国に要望をあげていきます。

◇グループトーク 小グループに分かれ、話し合いながら自分の考えを整理しました。

田舎で育って都会で働く。「ふるさと納税」はいわば恩返しでは？



それもあるけど、税金はそこに住んでいる住民のために利用すべきでは？

住民税の流出額が半端な額じゃないですね

今の行政サービスが低下する可能性もあるんだよ

肉とか魚を手に入れるために「ふるさと納税」があるのっておかしくない？

返礼品競争がいけない？

「寄附文化の醸成」まじめすぎない？



区も返礼品競争に参加してお金を集めれば

返戻品があるから、みんな寄附するのでは？

でも、「被災地復興支援」とか返礼品のないふるさと納税も増えているよ

地方の人口減少、財政の疲弊は大きいのでは？

都市から地方にお金を分けてあげるとのこと？

地方にお金を渡すだけで「地方創生」はできるのだろうか？

子どもに田舎体験とかをさせてあげたい。だから次世代育成基金に「ふるさと納税」という手もあるよね



ふるさと納税の問題点をみんな知っているのかなあ

はっきりは知らないと思う

上手く知らせていかないと



◇ふるさと納税について、区にやってほしいこと。区長に聞いてみたいこと。

ふるさと納税について、グループ討議で考えを整理したのち、区に対してやってほしいこと、「ふるさと納税」についての考え方ややるべきことのアイディアをもらいました。

●Aさん「返礼品競争」に参加すればどうか？

税金が流出していくのが問題ならば、区もイベントや観光などを活用して返礼品として競争に参加すれば、お金が集まると思う。

杉並の魅力発信にもなるし「荻外荘」「日本フィル」支援は固すぎるイメージがあるのですが。

●区長 なぜ原則に戻ったか

返礼品競争に参加するのも一つの考えかと思えます。しかし、ふるさと納税は、生まれ故郷やお世話になった地域に「寄附」することで住民税等の税額控除が受けられる制度です。



それがいつの間にか「官製通販」と言われる

ようになり、寄附なのに見返りを求めるのが当たり前ようになってきています。この風潮にブレーキを掛けることが必要だと思います。また、その地域のために必要なお金は、地域の人負担するという（負担分任）原則を区民の方によく理解してもらうことが大事であると考えました。

そこで、筋を通して原点に立ち返るのが一番であると考え、寄附のメニューを皆さんに明確に提示して「寄附文化を醸成」していくことにしたのです。

●Bさん 杉並独自の方法で地方を盛り上げては

私も今の「ふるさと納税」には批判的です。都市にあるお金を地方に移ただけで地方が栄えるとは思えないからです。先ほどグループトークで、子どもの田舎体験や交流会がとても有意義な事業だという意見がありました。実際に人と人、都市と地方が交流することが共存共栄につながると思います。

そろそろ国の用意した「ふるさと納税」はやめて、これからは「都市」というか、杉並独自で地方を盛り

上げるいろいろな方法を考えていくことが必要ではないでしょうか。

●区長 地方の活性化は都市へのインセンティブで

そのとおりだと思います。国の役割は「ふるさと納税」で地方にお金を移転させることではなく、都市がその持っている高い能力を地方に向かって発揮できるようにしていくことだと思います。そのためには、都市が力を発揮できるようにインセンティブを与えていくことではないでしょうか。例えば、杉並区が地方との交流のために拠出した経費を、ふるさと納税で減収した分から差し引くなどの制度は十分、考慮に値すると思います。

●Cさん「都市」は大丈夫なのか

地方を活性化させるために、東京が一役買うというのは大事なことだと思うのですが、肝心の東京は大丈夫なのでしょうか。「ふるさと納税」で税収は奪われるし、周りを見ると高齢者の数も増えているように感じています。

将来、特別養護老人ホームが足りないのではないかな。必要なサービスを受けられないのではないかと心配になります。

●区長 充実した行政サービスを提供します

東京の場合は、地方からの人口流入があることから、高齢化率はなかなか上がりませんが、着実に高齢者の



数が増加していることは事実です。それに伴って、老老介護世帯や独居老人が増えていきます。区では、住み慣れた地域で暮ら

していけるよう介護や在宅医療に力を入れる一方で、在宅が困難になったときに備えて特別養護老人ホー

ムなどの施設整備にも力を入れています。平成33年度末までには、緊急性の高い入所希望者が早期に特別養護老人ホームに入所できるよう施設整備を進めていきますので、その点は心配はいりません。

●Dさん 区民にうまく知らせていくことが必要

今日はふるさと納税の問題点を知ることができ勉強になりました。目先の肉に目を奪われているうちに、行政サービスが低下してしまうなどの弊害が起こるかもしれない。そういうことが起こったら困るということを、もっと区民にうまく周知していくことが必要だと思いました。

●Eさん 現状と問題点をどう区民に知らせるか

私も、「ふるさと納税」が問題を抱えた制度だということがよくわかりました。現状と問題点を、多くの区民の方にどんな形で知らせていったらいいのかというのが大きな問題だと思います。

●区長

先ほども申し上げましたが、ふるさと納税について原点に立ち返り、「寄附文化を醸成する」という杉並の姿勢を伝えることが大事と思い、パンフレットを作成し、問題点も分かりやすく伝えてきました。また寄附の対象となる「次世代育成基金」について広報（11月1日号）で取り上げ周知を図っているところです。



●Fさん どうしたら健全な寄附文化が根付くか

「ふるさと納税」の考え方自体は素敵だと思うのですが、返礼品が絡んできたところから、歪んできたように思います。返礼品で得をしたいから「ふるさと納税」をしたことがあるのですが、今思うとあさましいというか、「カッコ悪い」な、クールじゃないなと思い

ました。どうやったら、健全な寄附文化が根付くのか、素敵な案があればいいのですが。

●Gさん 寄附の使い途の宣伝を

税金の使い途は公のために使う。肉や魚を手に入れるために使うことに違和感を持たなければならないと思います。それと同時に寄附するのならその使い途を知り、納得したうえで寄附することが「寄附文化の醸成」に繋がっていくと思います。だから、寄附の使い途もしっかりと宣伝してください。

●Hさん 行政サービスのアピールで魅力を

健全な寄附文化の醸成というのは大事だと思いますが、杉並の行っている行政サービスをもっとアピールして魅力を伝えていく。それにより税が流出しないようにしていくという観点も必要ではないでしょうか。どのようなサービスに力を入れているかなどを伝えていくのはどうでしょう。



●区長 今、少子化対策が大事

それも大事な観点ですね。今、東京で一番力を入れなければならないのは「子育て支援」です。都市部が元気なのは地方から若者がどんどん流入していることによります。東京都への人口の集中は、まだまだ続くとみられています。ところが、東京は最も合計特殊出生率が低い自治体ですから、地方からの人口流入が止まるとやがては東京の人口も減少してきて活気もなくなってしまわないか。それを避けるには、合計特殊出生率を上げていくことが必要です。

そのためには、子育てを支援して、子どもを育てる

ことが自分にとって豊かな人生であるという実感が湧く社会を創っていかねばならないと思っています。

「子育て支援」には当然、お金がかかります。そのことをしっかりと伝えていかねばなりませんね。

●Iさん 杉並区への納税を優先しなければ

私は、この3年間ずっと被災地支援の「ふるさと納税」をしてきました。自分自身60代後半になって区が高齢者の施設整備に力を入れていることや、待機児童もゼロになったし、孫のことも考えると「ふるさと納税」ではなく、杉並区への納税を優先しなければと思いました。

●Jさん ふるさと納税について勉強になりました

今日は「ふるさと納税」について、とても勉強になったし、区長と直接話すことができて良かったです。できれば区民センターなどで、たくさんの区民と話し合うトークなどいかがでしょうか？

●区長

日ごろ区政について意見を述べる機会の少ない方々と、膝を突き合わせてじっくりと話すということのを大事にしていきたいと思っています。人数は少ないですが、無作為抽出でお集まりいただいた方とこのように意見を交換できる会を楽しみにしています。

◇今日の懇談会を振り返って

- 「ふるさと納税」を考えることで、杉並の行政サービスとか杉並の魅力について考えることができた。
- 「ふるさと納税」の仕組みや問題点がよくわかった。
- 地方の活性化を図ることが、やがては東京の利益になることを理解できた。
- 都市と地方の交流、地方が廃れればいずれ問題は都市にも及ぶという区長の話が印象的でした。
- 自分が納税しているお金がどのように使われているか。改めて考えさせられました。
- 他の区民の方の様々な意見や区長の話聞いたことは良かった。とても話しやすかったです。
- 杉並区と地方の交流や福祉に寄附金が活かされていることがよくわかった。





今回の懇談会は18歳から70歳までの無作為抽出の区民2,000名に通知し、参加希望者の中から11名の方に参加いただきました。

「すぎなミーティング」の様様を
ダイジェスト動画でご覧になれます。



編集後記 区政相談課

初対面の方同士、緊張することもあったと思いますが、活発にご発言いただきありがとうございました。この報告書は出席者の方の意見と区長からの回答を抜粋して編集させていただきました。いただいたご意見を、今後の取組みに活かしてまいります。

～すぎなミーティング報告書～平成 31 年 3 月 編集・発行 総務部区政相談課
〒166 - 8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号
電話 3312-2111